

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
剰余金の配当の基準日	期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同 連 絡 先	東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料)
同 郵 送 先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
公 告 方 法	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電子公告 電子公告掲載 URL https://www.kissei.co.jp/ ただし、電子公告によることができない事故 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に掲載して行います。
上 場 取 引 所	東京証券取引所 プライム

ご注意

- 株主様の住所変更、配当金の振込のご指定、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主総会資料（招集ご通知）が、従来の『印刷物の郵送』から『ウェブサイトでのご確認』に変更になります

会社法改正により、株主総会資料の電子提供制度が2022年9月1日に施行されました。これにより、株主総会資料（招集ご通知）が原則インターネットでのご提供となります。

株主の皆様へは、今後、従来の招集ご通知に代えて、招集ご通知に関する情報を掲載しているウェブサイトへのアクセス方法を通知する書面をお手元に郵送いたしますので、その案内に沿って招集ご通知をご確認いただけますようお願いいたします。

インターネットのご利用が困難な株主様は、2023年3月末までに、書面で招集ご通知を受領するためのお手続き（書面交付請求）をいただきますと、従来通り書面でお受けいただくことができます。

書面交付請求の手続きにつきましては、以下へお問い合わせいただくか、株主様の口座のある証券会社等へお申し出ください。今年度のお手続きの締め切りは2023年3月31日の到着分までとなっておりますので、書面交付請求をご希望の方は、早めのご対応をお願いいたします。

電子提供制度専用ダイヤル

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部テレホンセンター

☎ **0120-696-505**

(受付時間：土・日・祝日等を除く 平日9：00～17：00)

『よくあるご質問』はこちら ▶▶▶



<https://www.tr.mufig.jp/daikou/denshi.html>



第78期（2023年3月期）中間報告書

KISSEI REPORT

2022.4.1-2022.9.30



秋の上高地 大正池に映える新雪の穂高連峰



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



明日の健康を見つめる

キッセイ薬品工業株式会社



キッセイ薬品工業株式会社



独創的な新薬を研究開発し、
世界の人びとの健康に貢献します。

代表取締役会長
最高経営責任者

神津陸雄

株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り
厚く御礼申し上げます。

ここに当社第78期第2四半期連結累計期間
(2022年4月1日から2022年9月30日まで) の
事業の概況をご報告させていただきます。

今後とも、株主の皆様の一層のご指導、ご支
援を賜りますようお願い申し上げます。

経営ビジョン

世界の人びとの健康に
貢献できる独創的な
医薬品を開発し提供する
創薬研究開発型企業を目指す

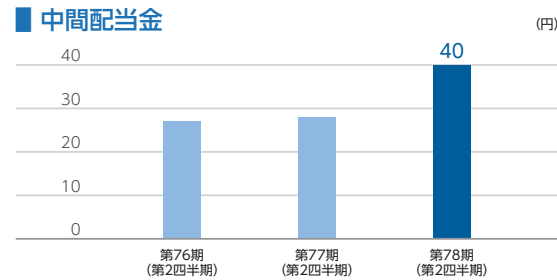
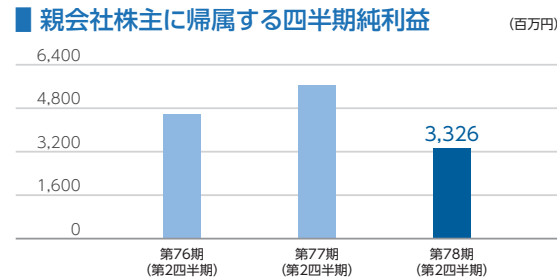
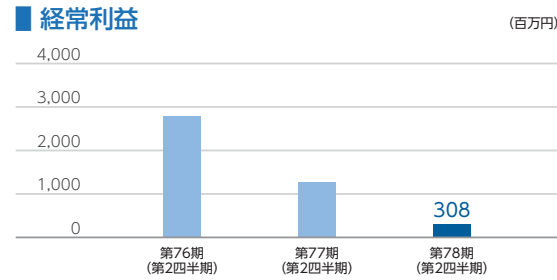
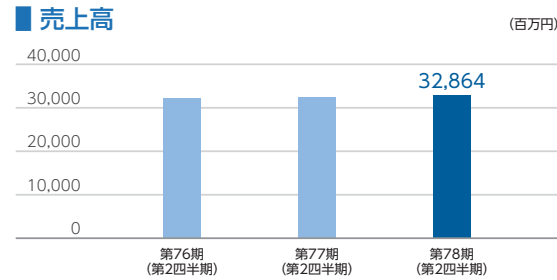
当期の概要

当第2四半期連結累計期間における医薬品業界は、薬価制度改革をはじめとする医療費抑制策の一環として、昨年4月の薬価の中間年改定に続き、本年4月にも薬価改定が実施され、新薬創出・適応外薬解消等促進加算の加算要件が拡充されるものの、後発品への置換え率に基づく長期収載医薬品の薬価引下げがより厳格化されるなど、引き続き厳しい経営環境のもとに推移しております。また、情報サービス業界におきまして旺盛なICT需要が継続する一方、建設請負業界、物品販売業界におきましては設備投資意欲に持ち直しの動きが見られるものの、円安の影響により足元の個人消費が押し下げられるなど、依然として厳しい競争環境下にありました。

このような情勢の中で、当第2四半期連結累計期間の売上高は32,864百万円（前年同期比1.5%増）、営業利益は△625百万円（前年同期比-）、経常利益は308百万円（前年同期比75.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,326百万円（前年同期比41.3%減）となりました。

利益面では、増収に加え、売上原価率が改善しましたものの、研究開発費を主とした販売費及び一般管理費の増加などにより、営業損失を計上し、経常利益は減益となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、投資有価証券売却益の計上がありましたものの減益となりました。

第2四半期連結累計期間業績推移



通期の見通し

● 連結業績見通し (単位：百万円)

	第77期 2022年3月期実績	第78期 2023年3月期見通し	対前期 増減額	増減率 (%)
売上高	65,381	68,500	3,119	4.8
営業利益又は 営業損失(△)	△1,402	500	1,902	-
経常利益	562	2,100	1,538	273.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	12,921	10,800	△2,121	△16.4

● 売上高

当初見通しより500百万円増額の68,500百万円（前年度比4.8%増）に修正いたします。

第2四半期連結累計期間の業績、ならびに現況を加味した見直しを行いました結果、医薬品事業におきまして500百万円の増額、情報サービス事業におきまして700百万円の増額、建設請負事業におきまして900百万円の減額、物品販売事業におきまして200百万円の増額といたしました。

● 利益

第2四半期連結累計期間におきましては、当初計画と比べ、リンザゴリクスの海外導出先であるオブシーバ社とのライセンス契約解約に向けた海外臨床試験の継承など、研究開発費を主に販売費及び一般管理費が増加しました一方、売上高の増加と売上原価率の改善などにより、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益は当初見通しを上回りました。年度後半では、売上原価率の当初計画からの上昇に加え、年度前半に引き続いて、リンザゴリクスの海外臨床試験費用を主に販売費及び一般管理費の増加を見込んでおります。

通期の利益見通しにつきましては、営業利益は当初見通しより2,300百万円減額の500百万円（前年度比-%）、経常利益は当初見通しより2,300百万円減額の2,100百万円（前年度比273.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は当初見通しより800百万円増額の10,800百万円（前年度比16.4%減）の見通しであります。なお、年度後半の営業外損益ならびに特別損益におきましては、投資有価証券売却益として約8,000百万円の特別利益を見込んでおります。

連結財務諸表

●四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前第2四半期 (2021年9月30日現在)	当第2四半期 (2022年9月30日現在)	前期 (2022年3月31日現在)	科目	前第2四半期 (2021年9月30日現在)	当第2四半期 (2022年9月30日現在)	前期 (2022年3月31日現在)
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	95,595	99,515	99,342	流動負債	20,565	16,499	18,744
固定資産	155,461	134,074	138,745	固定負債	23,292	16,175	17,163
有形固定資産	24,328	23,862	24,074	負債合計	43,857	32,674	35,907
無形固定資産	1,592	1,604	1,569	(純資産の部)			
投資その他の資産	129,540	108,607	113,101	株主資本	147,890	155,889	153,854
資産合計	251,056	233,589	238,087	その他の包括利益累計額	58,620	44,189	47,531
				非支配株主持分	688	836	794
				純資産合計	207,198	200,915	202,180
				負債純資産合計	251,056	233,589	238,087

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前第2四半期 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	当第2四半期 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)	前期 (2021年4月1日から 2022年3月31日まで)
売上高	32,388	32,864	65,381
売上原価	16,924	16,680	34,143
売上総利益	15,463	16,184	31,238
販売費及び一般管理費	15,193	16,810	32,640
営業利益又は 営業損失(△)	270	△625	△1,402
営業外収益	1,033	977	2,092
営業外費用	21	43	127
経常利益	1,281	308	562
特別利益	6,634	4,111	16,601
特別損失	642	2	656
税金等調整前 四半期(当期)純利益	7,273	4,418	16,507
法人税、住民税及び事業税	1,837	629	4,017
法人税等調整額	△279	420	△542
四半期(当期)純利益	5,715	3,368	13,032
非支配株主に帰属する 四半期(当期)純利益	49	42	110
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	5,666	3,326	12,921

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前第2四半期 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	当第2四半期 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)	前期 (2021年4月1日から 2022年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	931	△3,158	1,533
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,280	2,936	10,776
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,300	△1,407	△2,756
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	8	4
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,912	△1,620	9,557
現金及び現金同等物の期首残高	43,447	53,004	43,447
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	48,359	51,383	53,004

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況

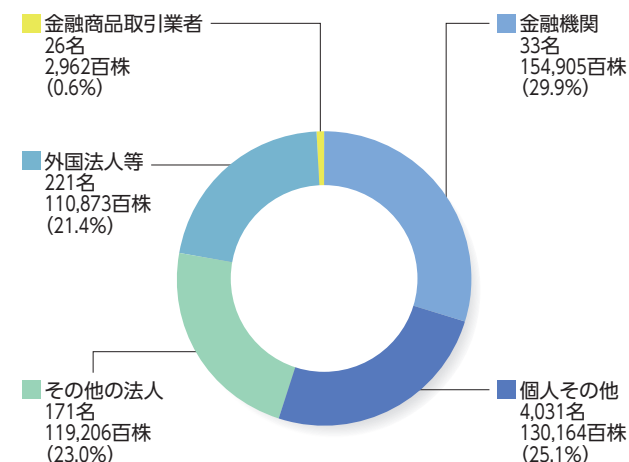
(2022年9月30日現在)

発行可能株式総数 227,000,000株
 発行済株式の総数 51,811,185株
 株主数 4,482名 (前期末比496名増)
 大株主

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	41,393百株	9.0%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	25,992	5.6
株式会社八十二銀行	23,004	5.0
第一生命保険株式会社	22,400	4.9
有限会社カンザワ	16,782	3.6
神澤 陸 雄	15,421	3.3
キッセイグループ従業員持株会	13,211	2.9
鍋林株式会社	12,223	2.7
株式会社長野銀行	11,260	2.4
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C USL NON-TREATY	10,654	2.3

(注) 1. 当社は自己株式5,695,353株を保有しておりますが、上記大株主には記載しておりません。
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

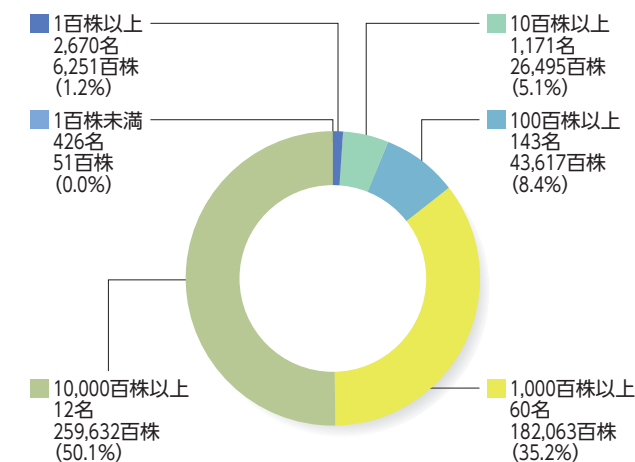
●所有者別分布



●株価チャート



●所有株数別分布



事業別の概況

医薬品事業

当第2四半期連結累計期間における医薬品事業の売上高は、27,946百万円（前年同期比3.6%増）となりました。コロナ禍の中、従来からのリアル面談と各種デジタルコンテンツを効果的に活用したハイブリッド型の医薬情報活動を推進いたしましたことなどにより、過活動膀胱治療薬「ベオーバ錠」、腎性貧血治療薬「ダルベポエチン アルファBS注JCR」などの売上が増加したことに加え、輸出売上、コ・プロモーションフィーなどが増加したことにより、増収となりました。なお、EAファーマ株式会社と共同開発を行いました潰瘍性大腸炎治療薬「カログラ錠」を本年5月に、顕微鏡的多発血管炎・多発血管炎性肉芽腫症治療薬「タブネオスカプセル」を本年6月に、それぞれ新発売いたしました。



情報サービス事業・建設請負事業・物品販売事業

情報サービス事業の売上高は3,335百万円（前年同期比11.2%減）、建設請負事業の売上高は1,250百万円（前年同期比7.5%減）、物品販売事業の売上高は332百万円（前年同期比6.1%増）となりました。



キッセイコムテック株式会社（情報サービス事業）



ハシパテクノス株式会社（建設請負事業）



キッセイ商事株式会社（物品販売事業）

医薬品事業

医療用医薬品

泌尿器科用薬剤

- ・ベオーバ錠 過活動膀胱治療薬
- ・ミニリンメルト、他*1 デスマプレシン製剤
- ・ユリーフ 排尿障害改善薬

腎・透析科用薬剤

- ・ピートル 高リン血症治療薬
- ・エポエチンアルファBS注JCR 腎性貧血治療薬
- ・ダルベポエチン アルファBS注JCR 腎性貧血治療薬
- ・フルスタン錠 活性型ビタミンD₃製剤

希少疾病用薬剤

- ・タブネオス MPA*2、GPA*3治療薬
- ・サビーン アントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤の血管外漏出治療剤

代謝内分泌科用薬剤

- ・グルベス 糖尿病治療薬
- ・グルファスト 糖尿病治療薬
- ・マリゼブ錠 糖尿病治療薬
- ・ペザトールSR錠 高脂血症治療薬

産婦人科用薬剤

- ・ウテメリン 切迫流・早産治療薬
- ・ゾラデックス1.8mgデポ 子宮内腺症治療薬

眼科用薬剤

- ・リザベン点眼液 アレルギー性結膜炎治療薬
- ・リズモンTG点眼液 緑内障・高眼圧症治療薬

その他の薬剤

- ・カログラ 潰瘍性大腸炎治療薬
- ・サラジェン 口腔乾燥症状改善薬
- ・リザベン アレルギー性疾患治療薬
- ・ガスコン 消化管内ガス駆除剤

ヘルスケア食品

介護・高齢者向け食品

- ・新スルーキング i
- ・のみや水
- ・おかゆケアスルー

エネルギー補給食品

- ・カップアガロリー

たんぱく質調整食品

- ・ゆめごはん

栄養補助食品

- ・えねばくゼリー

*1：ミニリンメルト、デスマプレシン点鼻液、デスマプレシン点鼻スプレー、デスマプレシン静注
 *2：顕微鏡的多発血管炎
 *3：多発血管炎性肉芽腫症

(注) 上記製品名は代表的なものを記載しております。

25.6%

21.6%

0.7%

10.0%

1.4%

0.7%

11.7%

5.4%

技術料 0.7%
(マイルストーン収入等)

その他 7.3%
(国内販売提携先供給額等)

情報サービス事業 10.1%

建設請負事業 3.8%

物品販売事業 1.0%

連結売上高
32,864百万円

研究開発の状況

当社の取り組み

中期経営計画「PEGASUS」では、「1. 国内売上の拡大」「2. 海外収益基盤の強化」「3. 開発パイプラインの拡充」「4. 経営環境の変化に対応する経営基盤の強化」の4つの基本方針を定めて取り組んでいます。特に、「3. 開発パイプラインの拡充」においては、創薬研究と開発プロジェクト推進のための積極的な投資を行うことで、新薬を継続的に開発、提供し、創薬研究開発型企業としての価値を高めていく方針です。

ライジェルファーマシューティカルズ社（米国）より技術導入いたしました慢性特発性血小板減少性紫斑病治療薬ホスタマチニブ（一般名、開発コード：R788）につきましては、本年4月に承認申請を行いました。また、本年9月には、丸石製薬株式会社と共同開発を行っております透析患者におけるそう痒症治療薬ジフェリケファリン（一般名、開発番号：MR13A9）につきまして、同社から承認申請が行われました。当社の創製品であります、子宮筋腫・子宮内膜症治療薬リンザゴリクス（一般名、開発番号：KLH-2109）につきましては、子宮筋腫を適応症として国内第Ⅲ相臨床試験を開始いたしました。

海外におきましては、リンザゴリクスの日本などアジアの一部を除く全世界における独占的な開発権及び販売権を許諾しているオブシーバ社（スイス）が、会社更生手続きの開始等を決定したことを受け、当社は本剤に関する全ての権益につきまして、オブシーバ社からの返還を進めております。なお、オブシーバ社は、

本剤の北米、アジア以外における商業化についてセラメックス社（英国）とサブライセンス契約を締結しており、当社は、オブシーバ社とのライセンス契約を解約した上で、同契約に従い、オブシーバ社とセラメックス社とのサブライセンス契約を譲り受けます。現在、欧州における本剤の発売に向け、セラメックス社との協議を継続しております。また、オブシーバ社は本年8月に、米国食品医薬品局（FDA）に申請していた、本剤の子宮筋腫を適応症とする新薬承認申請（NDA）を取り下げました。当社は、本剤の米国における開発につきまして現在、申請データ等の精査を行っており、その結果をもって開発方針を決定します。

リンザゴリクスのアジア地域における技術導出につきましては、昨年9月に中国においてバイオジェン社（中国）に独占的な開発権及び販売権を許諾したことに続きまして、本年11月、シンモサバイオファーマ社（台湾）に台湾における同様の独占的権利を許諾いたしました。



中央研究所（長野県安曇野市）



製剤研究所（長野県安曇野市）



第二研究所（長野県安曇野市）



上越化学研究所（新潟県上越市）

●自 社

(2022年11月現在)

一般名／開発番号	予定適応症	主な作用等	開発段階	開発区分等
ロパチレリン ／KPS-0373	脊髄小脳変性症	甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン（TRH）作用	承認申請中	導入品／塩野義製薬
ホスタマチニブ ／R788	慢性特発性血小板減少性紫斑病	チロシンキナーゼ阻害作用	承認申請中	導入品／ライジェルファーマシューティカルズ（米国）
ジフェリケファリン ／MR13A9	透析患者におけるそう痒症	κオピオイド受容体刺激作用	承認申請中	導入品／丸石製薬 共同開発
CG0070	筋層非浸潤性膀胱がん	腫瘍溶解性ウイルス療法	第Ⅲ相	導入品／CGオンコロジー（米国）
リンザゴリクス ／KLH-2109	子宮筋腫	GnRHアンタゴニスト	第Ⅲ相	創製品
	子宮内膜症		第Ⅱ相	創製品
KDT-3594	パーキンソン病	ドパミン受容体刺激作用	第Ⅱ相	創製品
KSP-0243	潰瘍性大腸炎		第Ⅱ相	創製品

●導 出

(2022年11月現在)

一般名／開発番号	予定適応症	主な作用等	実施国・地域	提携企業	開発段階
リンザゴリクス (linzagolix)	子宮筋腫	GnRHアンタゴニスト	欧州	セラメックス（英国）	承認取得
			中国	バイオジェン社（中国）	臨床試験準備中
	台湾		シンモサバイオファーマ（台湾）	申請準備中	
	欧州		セラメックス（英国）	第Ⅲ相	
	米国				
	中国		バイオジェン社（中国）	臨床試験準備中	
シロドシン (silodosin)	前立腺肥大症に伴う排尿障害	α1Aアドレナリン受容体拮抗作用	ベトナム、他	エーザイ（日本）	承認申請中
ホスタマチニブ (fostamatinib)	慢性特発性血小板減少性紫斑病	チロシンキナーゼ阻害作用	韓国	JWファーマシューティカル（韓国）	申請準備中
			香港	インマジンバイオファーマシューティカルズ（中国）	承認申請中
			中国、他		臨床試験準備中
KDT-3594	パーキンソン病	ドパミン受容体刺激作用	中国、他	アフアメドセラピューティクス（中国）	第Ⅱ相

＜国内売上の拡大＞

「カログラ®錠」と「タブネオス®カプセル」を新発売

潰瘍性大腸炎治療薬「カログラ®錠120mg」

当社は、2022年5月に、潰瘍性大腸炎治療薬「カログラ®錠120mg」（一般名：カロテグラストメチル）を発売しました。本剤は、EAファーマ株式会社（旧味の素製薬株式会社）が独自に創製した低分子化合物であり、経口投与可能な $\alpha 4$ インテグリン阻害剤として世界で初めて発売された薬剤です。炎症性細胞表面の $\alpha 4 \beta 1$ インテグリンと $\alpha 4 \beta 7$ インテグリンに作用し、潰瘍性大腸炎患者さんの大腸粘膜病変部位に認められる炎症性細胞の過度な集積・浸潤を抑制することで、抗炎症作用を発揮すると考えられています。

当社が販売し、EAファーマ株式会社がコ・プロモーションを行っています。

選択的C5a受容体拮抗薬「タブネオス®カプセル10mg」

2022年6月に、選択的C5a受容体拮抗薬「タブネオス®カプセル10mg」（一般名：アバコパン）を発売しました。本剤は、抗好中球細胞質抗体（ANCA）関連血管炎に分類される顕微鏡的多発血管炎（MPA）、多発血管炎性肉芽腫症（GPA）に対し、C5a受容体拮抗作用により治療効果を発揮する、ファーストインクラスの経口剤です。当社は、2017年6月に、スイスのビフォー・フレゼニウス・メディカル・ケア・リーナル・ファーマ（VFMCRP）社より、日本における本剤の独占的開発・販売権を取得し、創製元のケモセントリクス社（米国）がスポンサーとして実施した国際共同第Ⅲ相臨床試験（ADVOCATE試験）に、VFMCRP社とともに参画しました。ADVOCATE試験では、本剤によるグルココルチコイドの投与量の節減又は短期的な使用の可能性が示唆されており、血管炎の症状の再燃を抑制するための新たな治療選択肢となることが期待されています。

＜開発パイプラインの拡充＞

2テーマが承認申請、1テーマが第Ⅲ相臨床試験入り

慢性特発性血小板減少性紫斑病（ITP）治療薬ホスタマチニブと、透析患者におけるそう痒症治療薬ジフェリケファリンが承認申請されました。また、リンザゴリクスについては、子宮筋腫を対象とした国内第Ⅲ相臨床試験が開始されました。

慢性特発性血小板減少性紫斑病治療薬「ホスタマチニブ」

ホスタマチニブは、ライジェルファーマシューティカルズ社（米国）により創製された経口投与可能なチロシンキナーゼ阻害剤であり、マクロファージによる血小板の破壊を抑制することにより、血小板の減少を抑制し、慢性ITPの出血症状を改善します。当社は、2018年10月に日本、中国、韓国、台湾における開発権及び販売権を取得し、国内第Ⅲ相臨床試験にて良好な結果を得て、2022年4月に承認申請を行いました。本剤は米国、日本及び韓国で希少疾病用医薬品の指定を受けています。米国では、慢性ITP治療薬として「TAVALISSE® tablets」のブランド名で2018年に発売され、その後欧州、カナダ、イスラエルでも発売されています。

透析患者におけるそう痒症治療薬「ジフェリケファリン酢酸塩」

ジフェリケファリン酢酸塩は、カラセラピューティクス社（米国）により創製された κ オピオイド受容体作動薬で、これを有効成分とした本剤は、血液透析患者におけるそう痒症の改善を適応症とした世界初の静脈注射用製剤です。血液透析患者の中等度から重度のそう痒症治療薬として、米国では2021年8月に、欧州では2022年4月に承認取得しています。2013年4月に、丸石製薬株式会社がカラセラピューティクス社より本剤を導入し、2017年3月より当社と国内で共同開発を進め、2022年9月、丸石製薬株式会社より承認申請されました。

社名	キッセイ薬品工業株式会社
英文社名	KISSEI PHARMACEUTICAL CO., LTD.
設立	1946年（昭和21年）8月9日
資本金	24,356,653,478円
主要な事業内容	医療用医薬品の研究・開発・製造・販売
従業員数	1,394名

事業所	本社 〒399-8710 長野県松本市芳野19番48号 電話（0263）25-9081
-----	--

東京本社	〒103-0022 東京都中央区日本橋室町一丁目8番9号 電話（03）3279-2761
------	--

東京本社（小石川）	〒112-0002 東京都文京区小石川三丁目1番3号 電話（03）5684-3530
-----------	--

支店	北海道支店、東北支店、関越支店、東京支店、 神奈川支店、松本支店、東海北陸支店、関西支店、 中四国支店、九州支店 （支店の下に48営業所を設置）
----	---

工場	松本工場（長野県松本市） 塩尻工場（長野県塩尻市）
----	------------------------------

研究所	中央研究所・第二研究所・製剤研究所（長野県安曇野市） 上越化学研究所（新潟県上越市）
-----	---

ヘルスケア事業センター	（長野県塩尻市）
-------------	----------

●役員

代表取締役会長	神澤陸雄	社外取締役	清水重孝
代表取締役社長	竹花泰雄	社外取締役	野村稔
取締役副社長	福島敬二	社外取締役	内川小百合
専務取締役	高山哲	社外取締役	大月良則
常務取締役	北原孝秀	常勤監査役	伊佐治正幸
取締役相談役	降旗喜男	常勤監査役	菊池伸次
取締役	野明浩史	社外監査役	中川寛道
取締役	宮澤敬治	社外監査役	岩淵道男

Information



ホームページのご案内

当社のホームページにて、タイムリーな情報を提供しております。是非アクセスしてください。

<https://www.kissei.co.jp/>

統合報告書 2022
Annual Report 2022

企業の財務情報と非財務情報を統合して年次報告する「統合報告書」及びその英語版である「Annual Report」をホームページに掲載しております。



資料請求のご連絡先：広報部 TEL：（0263）25-9523
（土・日・祝日、当社休日を除く月～金 8：40～17：20）